

15. 調査研究

原 著

富山県沿岸の暖海性貝類 2

高山茂樹

Warm Water Component Molluscan Shells
in the Coastal Water Regions of Toyama Prefecture, 2.
Shigeki TAKAYAMA

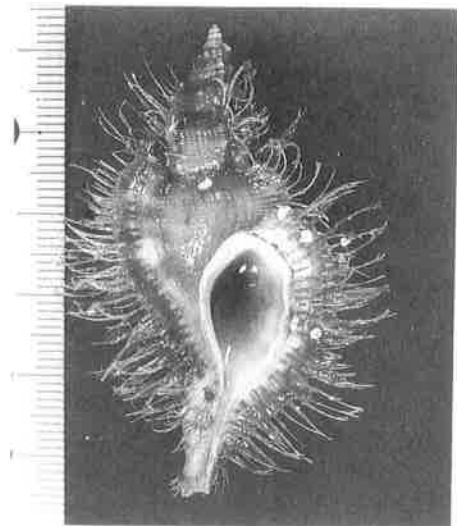
富山県沿岸の海産貝類は布村(1988)の報告以降、布村・宮本(1994)により富山湾湾奥の富山市の貝が報告され、明らかになりつつある。しかしながら、富山湾東岸の海産貝類のまとまった報告は未だ行われていない。著者は富山湾東岸の海産貝類の内、暖海性と考えられる6種についての採集例を報告した(高山1991)。本報告は1994年に新たに採集された暖海性貝類2種の採集例について報告する。

殻 高	55.3mm
殻 径	23.2mm
採 集 者	高山茂樹
産 地	富山県魚津市青島沖 水深140~150m、刺網
採 集 日	1994年9月21日
標本所蔵	魚津水族館

7. ナガスズカケボラ (フジツガイ科)

Reticurtriton tenuiliratus (LISCHKE, 1873)

1994年9月21日、富山県魚津市青島沖水深140~150mに仕掛けた刺網にニホンキサンゴとともにかかった。本種は房総半島から九州にかけての潮下帯から水深100mの岩礁に生息する(奥谷、1986)。日本海岸では能登半島沖が北限とされている(肥後・後藤、1993)。富山県近県の採集例としては福井県四ヶ浦、福井県若狭湾水深64~73m、石川県富来町で記録されている(伊藤、1990; 大橋、1974; 窪田、1962)。富山県でも富山湾の水深70mからの採集記録があるが、採集地点は特定されていない(菊地、1936; 坂下、1955)。今回の採集例は富山県における産地の明白な最初の個体である。



第1図 ナガスズカケボラ

Fig. 1 *Reticurtriton tenuiliratus*

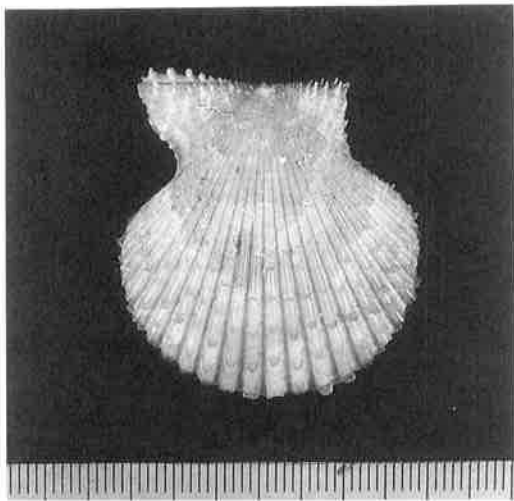
8. ヒキウギガイ (イタヤガイ科)

Chiamys (Micachlamys) nobilis (REEVE, 1852)

1994年11月11日、富山県魚津市青島沖の水深100mに仕掛けた刺網にニホンキサンゴととも

にかかった。本種は房総半島から沖縄諸島の潮下帯下部から水深20mの岩礁に足糸で付着している(松隈、1986)。日本海側では男鹿半島以南で記録がある(肥後・後藤、1994)。しかしながら、山形県の飛島や鼠ヶ関、石川県外浦、福井県四ヶ浦など採集記録は多くない(鈴木、1979; 目置、1933; 窪田、1962)。富山湾ではこれまで高柳が富山県魚津市沖で採集した記録があるのみである(布村、1988)。本種の日本海沿岸の分布は稀と考えられる。又、本採集記録は富山湾で2例目に当たる。

殻 高	37.0mm
殻 長	35.3mm
採 集 者	加野泰男
産 地	富山県魚津市青島沖 水深100m、刺網
採 集 日	1994年11月11日
標本所蔵	魚津水族館



第2図 ヒオウギガイ

Fig. 2 *Chlamys nobilis*

< 参 考 文 献 >

- 肥後俊一・後藤芳央(1993)日本及び周辺地域産軟体動物総目録。エル貝類出版局、大阪。
- 目置 謙(1933)貝類。石川県史、(5)、632-655。
- 伊藤勝千代(1990)若狭湾における貝類の出現分布。日本海区水産研究所報告、(40)、79-211。
- 菊地勘左衛門(1936)富山湾軟体動物腹足類目録。1-17。
- 窪田彦左衛門(1962)福井市立郷土博物館所蔵貝類標本目録。福井市立郷土博物館、福井。
- 松隈明彦(1986)イタヤガイ科。in 決定版生物大図鑑、奥谷喬司編、290-293、世界文化社、東京。
- 布村 昇(1988)高柳コレクションを中心とした富山と能登の貝。富山市科学文化センター収蔵資料目録、2。
- 布村 昇・宮本 望(1994)富山市の貝。富山市科学文化センター収蔵資料目録7。
- 奥谷喬司(1986)フジツガイ科。in 決定版生物大図鑑 貝類、奥谷喬司編、112-115、世界文化社、東京。
- 大橋 力(1974)富来町の生物(5)貝類。石川県富来町史資料編、155-182。
- 坂下栄作(1955)富山県動物目録。1-192。
- 鈴木庄一郎(1979)山形県の海産無脊椎動物。たまきび会、山形。
- 高山茂樹(1991)富山県沿岸の暖海性貝類。富山県生物学会誌、31、43-49。